



アルミニウムの食器を使うと、頭がぼけるってほんとうなの

アルミニウムと「ぼけ」の関係は

「ぼけ」といわれる病気には、いろいろなものがあり、そのうち、アルミニウムとの関係が研究されているのは、「アルツハイマー病」といわれるものです。

アルミニウムが「ぼけ」の原因と考えられるのは、アルミニウムを多くふくんだ水を飲んでいて地域の人に、アルツハイマー病にかかる人が多いことからです。

アルツハイマー病の人は、脳にふつうにはないたんぱく質がたまって、脳の細胞が死に、発病しているといわれています。そのため、研究では、水にとけたアルミニウムを飲むと血液に入り、脳へ行ってたまることと、アルツハイマー病の人の脳にたまるたんぱく質が、アルミニウムでかたまることをたしかめました。そして、この研究をした人は、アルミニウムがアルツハイマー病の原因だとして、アルミの食器をやなべなどを、使わないように言っているのです。

アルミニウムと「ぼけ」の関係は、まだ研究中

しかし、中にはこの説に疑問を持つ人や、反対する人もいます。

それは、ふつう、食べ物から口に入るアルミニウムの量が、飲み水やアルミニウムのなべなどの、調理器具で作った料理にふくまれるアルミニウムの量の、十倍から十数倍になるからです。

そんなわけで、アルミニウムの食器を使うと、頭がぼけるかどうかということについては、まだ研究中なのです。（監修・保志 宏）

